



連絡先: 927-0014 鳳球郡水町権り1197番地

教育相談室「あし塾」事務局

0768-56-1152 (FAX兼用)

穴水再発見

の旅4

旧能登線

鹿馬めぐり

令和4年8月23日(火)



(前波駅)



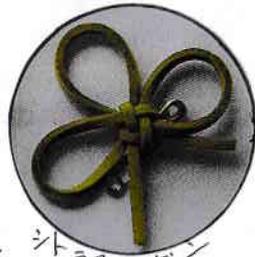
(中居駅)



(春の甲駅)

「穴水再発見の旅」実行委員会

旧能登線「廃駅めぐり」



今回の「廃駅めぐり」ツアーのコンセプトは「マイナスをプラス」です。能登線が廃止され、住民の生活は大きく変わりました。残った廃駅は、荒れ放題のところもあり、自然遺産の知らないこの廃駅を「町の宝」としてとっておくことはできないか、という願いがあります。

「確かに人の営みがあった」ことを廃駅とその周辺に見つけてください。それを写真などの形で表してください。

各駅では「百草木」など、ゆかりのあるものを探してください。むかしは、今と違って、気が付かなくても新しい発見がある



(比良駅)

かも知れません。パンフレットには×印欄があります。気が付いたこと、発見したもの、感想などを書いておいてください。

そして、ぜひ**写真**を撮ってください。コンテストがあります。

このツアーは北国新聞社で後援しています。

水再発見

令和4年
8月23日(水)



- 9:30 住吉公民館集合
オリエンテーション
- 9:45 出発
- 9:48 中尾駅 (20分)
- 10:15 比良駅 (20分)
- 10:40 能登川 (20分)
(トイレ休憩)
- 11:15 鹿波駅 (20分)
- 11:45 鹿波寄道パーキング
昼食休憩 (30分)
- 12:25 甲馬駅 (30分)
(甲公民館でトイレ)
- 13:08 沖波駅 (20分)
- 13:38 前波駅 (20分)
- 14:05 諸橋公民館
(トイレ 15分)
- 14:20 古君駅 (20分)
- 15:00 住吉公民館解散

移動時間、各駅への滞在時間などは、あくまで目安とする時間です。状況によって変更があることをご承知おきください。



水再発見の花
甘ユリ

旧能登線の廃駅に

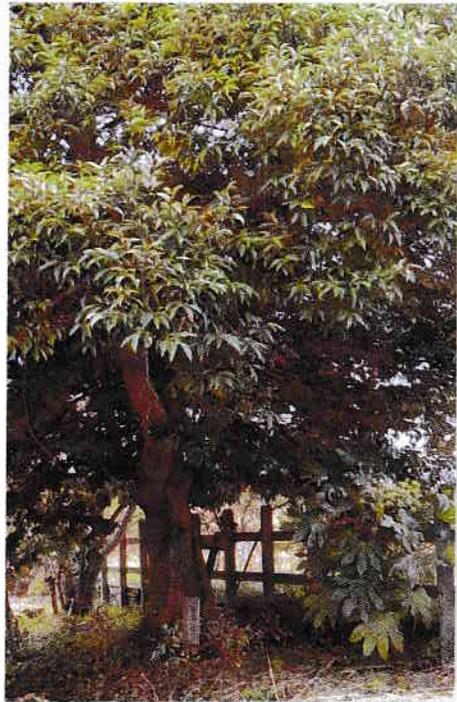


能登線は2005年(平成17年)4月1日全線廃止されています。

穴水駅には現存する穴水駅の外に、中居、比良、鹿波、甲、沖波(立戸の波)、前波、

古島の7つの駅がありました。穴水駅を除く7つの駅すべてに「百年木」という表示杭のある「椎の木」が植えられています。

穴水駅から珠洲・蛸島駅までの30駅のうち、22駅に、この「百年木」があるとのこと。 (以上、廃線を調べたおっちゃんから、昨市の男性からの情報です。)

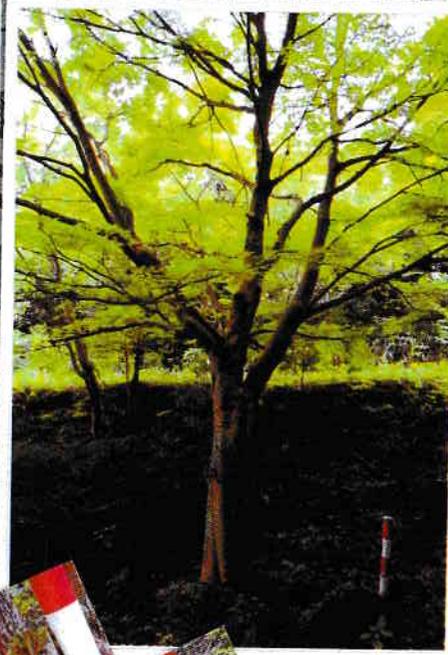


左の写真は前波駅の「百年木」です。表示杭の裏には1991年と記されています。

しかし、なぜ、能登線各駅に「百年木」が植えられているのか、そして、それがなぜ「椎の木」であつたのか、限られた範囲で調べ、調べても、聞いておいてもわかりませんでした。

能登線が廃線になったのが17年前。「百年木」が植えられたのは31年前です。

輪島市門前町 セリカワ



輪島市門前町鐘川(セリカワ)にある信念寺前住職の藤井秀信さんから「百年木」に関する情報が寄せられました。

藤井さんの持ち山に行くと、確かに「百年木」の表示杭のある「イハモジの木」がありました。1990年の文字も。



藤井さんの話によると「どんな事業だか、口は思い出せないが、中野陽一知事時代に、景は土地を提供してくれれば、景は植樹をする。但し、100年は切

つてはいけない。という条件で土地提供の募集があったので応募した。」とのことでした。

能登鉄道もそれに対応したのか...。ただ、それがなぜ「椎の木」であつたのかはわかりません。鐘川の木はなぜ「モジの木」であつたのかもわかりません。

おぼろげに推測すれば、「椎」も「モジ」も長寿であり、巨木になるといふことが大きな意味を持つのかも知れません。信念寺の境内には、樹齢400~500年以上の「椎」や「ツツジ」の巨木があります。

存いとき

中尾駅

中尾駅は宍粟駅を出て
能登線最初の駅で、宍粟
町中尾にある。片面ホ

ム1面1線の無人駅。ホーム上には待合所のみ。



(春の中尾駅)

この中尾駅。周囲は田んぼ。駅の
そばに民家が一軒あるのみです。駅の待合所周辺も、線路
がわかれ所も、とまぎれいれ整備されています。ほろ、いの
来ても...です。この民家の人と田んぼの仕事をする人たち、気
にかけて草刈りや花畑の世話をしているのです。簡単な作業
をしておいて、廃駅に任せておくと人の営みあつた名
残りを大事にしてくれています。

廃線、廃駅めぐりに来る人も多く、年間100人を超えるそうです。

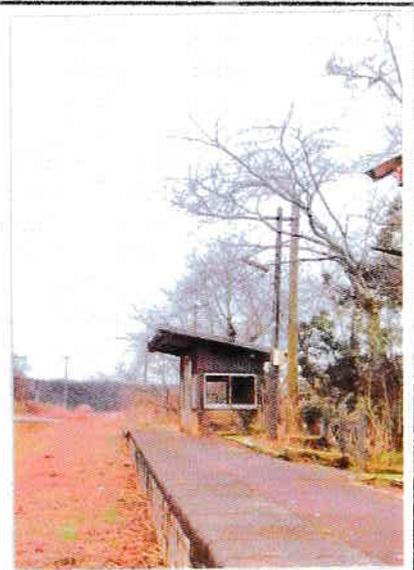
スマップ (当時)

中尾正広さん

2015年2月25日(水)に放
映された所ジョージさんの番
組「1億人の大賞問!? 笑って
こえて!」で中尾駅が紹介
されました。

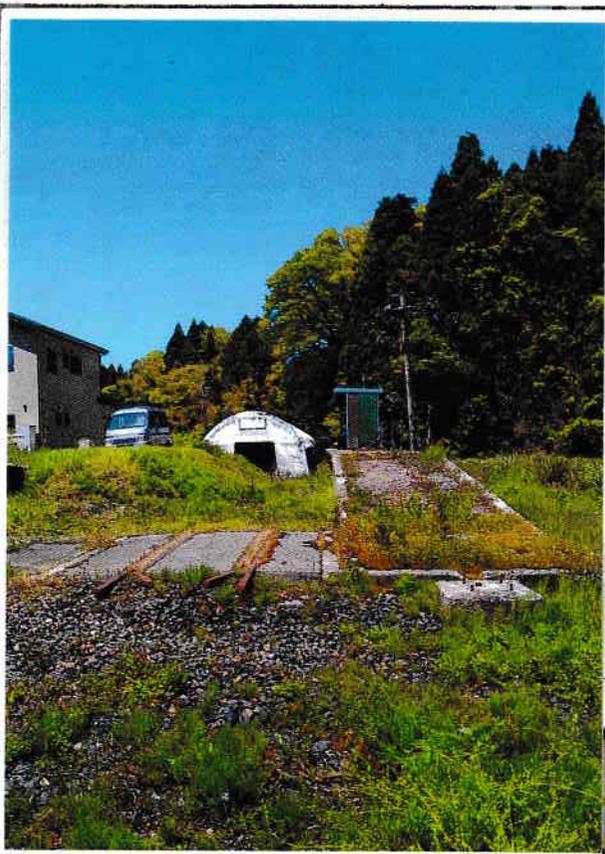
搞笑芸人のピコス (又吉直樹
綾部祐二) が所ジョージさん

「宍粟宍粟町中尾」を訪れる
指令を受けて中尾や中尾南を歩きまわりました。皆中
尾でくわいの心。スマップの中尾正広さんがゲストにのび。ど
うもそれに合わせておきました。又吉直樹さんの「火花」を知
っている人の話や、ナマコを加工、販売している森川仁久郎さん
の話が取り上げられていました。



memo.





比良駅



(百年木)

穴水町比良にある相対式ホーム2面2線を持つ無人駅。すぐ近く向洋中学校(現在廃校)があったため、多くの通学生が利用していた。

現在、この比良駅周辺は私有地になっているため、断りなく出入りするとは慎まなければいけません。地主の方の語では、家の前にある椎の木がシタタだったのが切り取られ「百年木」の表示杭があったため切るのをやめたとのことでした。ここは全国各地から訪れるという事です。

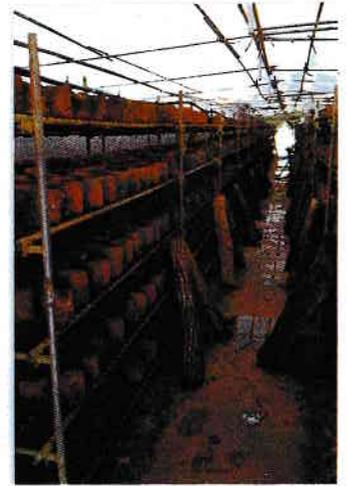


この廃線跡の地主の山岸英光さんは、シタタの菌床栽培をされています。シタタは通常は原木に菌を打ちこんで栽培をしますが、山岸さんは全国の

廃線跡を利用して

キノコ栽培農家を訪ねて研究を兼ね、現在の菌床栽培にたどりついたとのことでした。

memo.



廃線跡にビルハウスを建て、中には菌床がいろいろあります。

能登ワイン



能登ワインのぶどう畑。夏の暑い陽ざしの中、緑のブドウ棚が一面に広がっています。この頃、ブドウの実は固い緑のツブのままだが、やがて「能登ワイン」として市場に出まわることになります。2006年に本格的に醸造を

はじめた能登ワインは、
 涼み果ったブドウだけを
 アレドリ採り



単一品種のワインにしています。



能登ワインは ぶどう畑が広がる丘の上にワイン醸造所を持ち、試飲と見学の自由ができるギャラリーがあります。能登の風土に育ち、能登産ワイン専用ブドウを何も足さずに醸し出した本格的な生ワインです。(能登ワイン(株)ホームページ)



能登ワイン(株)/能登ワイン
 マスカットベリーAの压榨。



能登ワイン(株)/能登ワイン
 自社畑冬の剪定作業。

(写真はいつでも能登ワイン(株)ホームページから)



鹿波駅

かほみ 23

大木町鹿波にある片面ホーム1面1線の無人駅。鹿波駅は集落から少しふん離れたところにあり、近くにはバス停もない。本当に山の中の駅です。



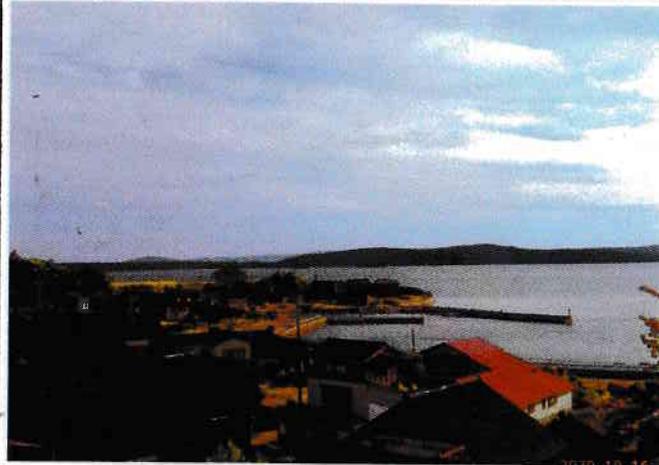
能登線の珠洲にある白丸駅とともに知多境駅として紹介されています。鹿波-鹿線スニアの人下でも鹿波駅を見つけたら必ず断念の人むいと云。実はこの駅構内に民家や軒あり。家の玄関の前がホームなのです。今時の珍風景かもしれません。風景です。

なぜ、山の中の駅が



(鹿波駅から甲方面)

なぜ、知多境駅と呼ばれる駅ができたのか？ もともと集落に近い場所に予定して駅が、地域住民の強い反対があったため、現在の位置に持つこと。経路的合理的



由の工期の問題があったとの説も。

さ2. どの経路由がわかりにくい。今どきでは...

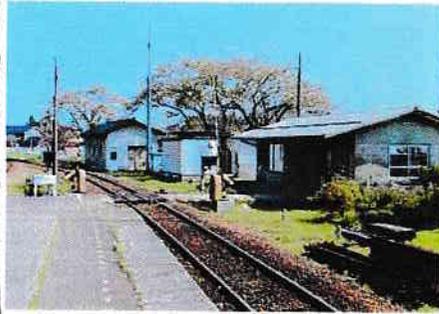
(鹿波バイパスから鹿波集落を望む 奥に能登島)

memo.

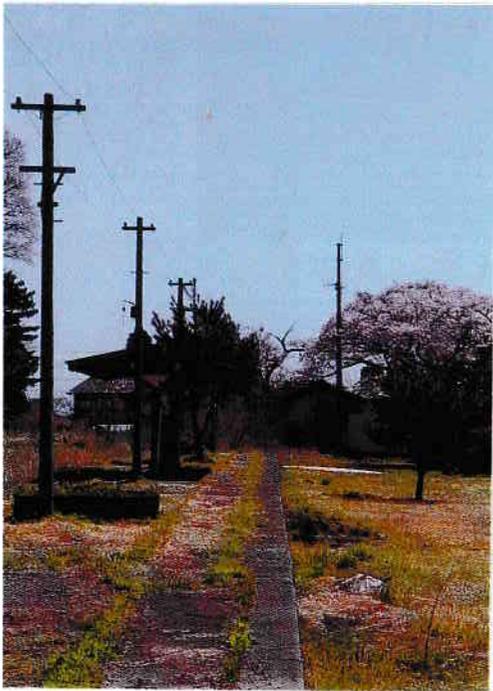
ゆふとよき

甲馬

宍戸町にある島式ホーム1面2線の駅。駅舎の造りは能登町にある鶴川駅とそっくりで、下りツグ堀造りに付いている。有人駅であったが、廃線時は無人駅に付いた。集落の近くに駅があり、自動券売機も設置されていた。宍戸町の駅の中で唯一、急行が停車していた。



廃線に存る前の甲馬の様子。横内踏切があった。(インターネットより転載)



他の駅と同様、廃駅後は雑草がおおむくさるようになっていたが、地域の人たちの善意で、節目、節目に、駅舎周辺、ホーム、廃線跡、などの草刈りなどが行われ、きれいを保たれている。

春には、廃駅と桜の風景が特別感を出している。

春にもぜひ訪れてください。

鉄道郵便車オ110

下の写真の奥に止まっている水色の車両がオ110です。1986年に廃車になったオ110は2005年に能登線が廃止されるのに伴い、七尾線能登中島駅側線に移転されています。(写真はインターネットより)



上の写真は甲馬の「百年木」榎の木です。かなり大きく付いています。

memo.

沖波駅 (立戸の浜駅)

宍水町沖波にある片面1面1線の無人駅。もともと、この駅は国鉄能登線の海水浴客のため、夏季のみ営業の立戸



の浜仮乗降場として設置されました。1988年(昭和63年)にこの鉄道へ転換になり、国鉄能登線の駅になり、常設駅となり沖波駅と改称されました。

待合所は線路の下側にあり、他の駅のそれらに比べて大きい建物です。当時は見晴しも良かったのだと思います。今はそのまじり林の中の駅で、不思議な感覚になります。



(沖波駅の待合所)

沖波駅平前の橋梁



(沖波駅側から集落に向かう)

宍水町にある旧能登線の橋梁はほとんどが危険なため取り壊されています。この沖波駅の橋梁は通行するに十分な状態といえることから、そのままで残されています。



ウバエリ
姥百合です。
(資料写真)

memo.



前波駅

(秋の前波駅)



(百年木)

宇水町前波にある。国鉄時代は沖波駅が夏しか営業していたため、沖波集落、前波集落、宇加川集落の住民はこの前波駅を利用していた。駅は単式ホーム1面1線を待合所だけがある無人駅。この駅も集落から少し離れていて、ちろんバス停などもない。おみやげ店もなかったこともあり、寂しさを感じる。この前波駅の百年木は表示板も含め、もつとわかれよい。

前波駅のホームから双孖山方面を見る



前波駅も雑草におおわれることもあるが、地域の人たちが農作業の合間合間に草刈りなどをして大きく荒れることを防いでいるようです。これも四季折々折々、心安い風景を見せてくれます。

memo.



ふるさつ えき

古君駅



旧能登線 穴水町の最後の駅。
所在地は穴水町花園。しかし駅
名はとりのり集落の古君を名乗
っていた。

単式ホーム。駅舎は無く待合
所のみで無人駅。

現在は写真のように荒れ放題。



この古君駅は、新川方
面に900m程進んだとこ
ろに能登列車脱線事故
現場があり、慰霊式が
あるワケだけ、古君駅
周辺の草木が伐採され
待合所跡と試案を現
します。実は、日本の秋
境駅にあげられているの
です。



この乗車券は？

国鉄能登線の「古君から
志路ゆき」の常備片道乗車券です。

ただ、古君駅は駅舎も無く無人駅だったから古
君駅発行といわれる理屈に合いません。珠洲市の志路海
岸には、鍋島助三郎の悲恋伝説があり、「古君」「志路」の
響きから「縁起きつぷい」として発券されたようです。



(百年木)



(古君集落の風景)

MEMO.

資料①

旧国鉄
能登線事故

1985年(昭和60年)
7月1日、能登線古君
駅-鷺ヶ崎間(下り)
気動車急行列車「能登
路5号」が古君駅を
出たあと、築堤の盛土
が一部崩壊し、線路が
湾んでいる場所に入



急ブレーキが間に合わず、脱線・横転。(能登線列車脱線事故の慰霊碑)

乗客7名以下敷き死亡、32名
が負傷した。

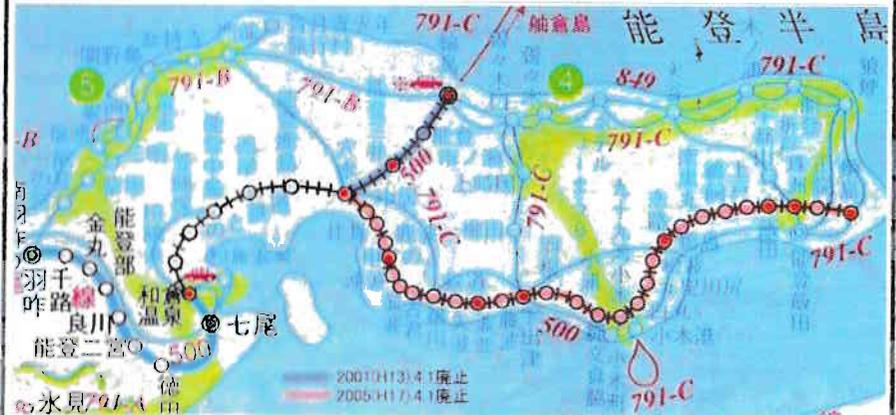
雨は連日続き、12日間の累
計雨量が540mmに達したこ
とが大きな原因だとされています。



事故から36年、JR西日本土屋
鉄道部の社員とOBの人たちが
事故現場の慰霊碑と脱線跡
の清掃活動をし、事故のことを
風化しないようにと思い強く
くれています。

資料②

旧能登鉄道
路線図



能登鉄道の
車止め

旧能登鉄道が廃止さ
れたことで、穴水駅が終
点です。その終端に車
止めが設置されています。
車止めは「止める」とい
う衝撃を「緩和する」
構造のようです。

